



**地域の声を県政に反映
ご意見ご要望をお聞かせください。**

2020年度予算 主な事業内容



消防防災航空隊 新型機体の運用状況
R1年9月導入、飛行173時間。活動状況、水難救助4、山岳救助5、その他救助2、救急6、その他3。4月から二人操縦士体制を本格導入・航空隊基地に運行責任者配置。フライトレコーダーやボイスレコーダーなど運航の安全に資する12の装備を搭載。



駿河湾フェリー利用促進 [122,000千円]
2019年度(6~1月)運航率88.7%、前年比77.6% 旅客数70,204人、車両14,640台。団体ツアーの貸切バス代への支援。新規市場(甲信越地域)からの誘客。利用促進対策や欠航対策の調査・分析。3市3町と連携でフェリー活用の観光魅力発信。



調査船「駿河丸」代船建造 [950,500千円]
R1基本設計、R2代船建造、R3.12月竣工予定。
・大型ネットにより採取能力を強化。
・サクラエビ、シラス等の探知能力を強化。
・バイオ研究支援水深2,000mの採取・観測能力。
・安全作業性を考慮した作業空間。
・女性用の居住スペース、衛生設備導入。



EV・自動運転化技術促進[305,100千円]
・世界的に進むEV(電気自動車)や自動運転などの急速な技術革新に対応する県内企業支援
・研究開発助成・補助率2/3、限度額2千万円
・近未来技術実装助成・補助率1/2、同2千万円
・モビリティサービスネットワーク構築セミナー
・実証実験4地域(都市部、郊外、過疎地、実験場)



バイオマスプラントの事業化・普及
県工業技術研究所が民間企業(山梨罐詰・はごろもフーズなど)と共同で開発した「静岡版バイオマスプラント」の実用化支援。H29年度から食品工場6か所で実証実験済、中小食品企業向けに食品残渣の廃棄負担軽減やエネルギーの地産地消を図る。



藤枝高田工業団地(セミ・オーダーメイド)
・全体事業費:33億円 ・事業期間:H29~R3
・規模:10.2ha 6区画
平成29年度に事業着手。現在、A工区を中心に盛土工及び道路施設工を進め、令和3年度の引渡しを目指す。新工法「リフトローラー工法」を積極的導入、工事工程の短縮に取組む。



浜松みをつくし特別支援学校[2,650,774千円]
伊豆の国特別支援学校 [2,723,009千円]
・R3年4月開校 ・対象 知的単一・知的重複 小学部・中学部・高等部、設置規模、浜松230人、伊豆の国150人 R2年4月~学校概要説明会、制服・校章決定 R3年3月 スクールバス運行計画決定



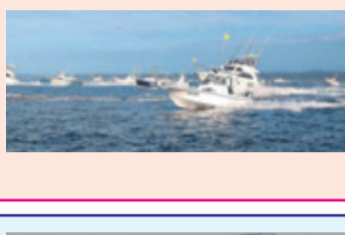
ナショナルサイクルロード指定[470百万円]
昨年9月ナショナルサイクルルート制度創設、太平洋沿岸自転車道整備を令和2年に完了。
・R1年11月、「つくば霞ヶ浦りんりんロード(茨城県)」、「ピワイチ(滋賀県)」など指定済。県は整備済みの藤枝市~磐田市まで再整備(防護柵、舗装、区画線)する。



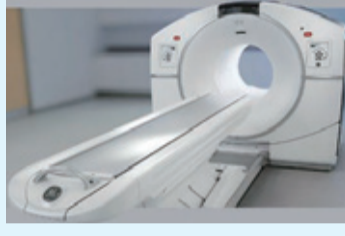
先端農業プロジェクト事業[575,429千円]
農業の生産性向上と新たなビジネス創出を図るため、AOI-PARCを拠点にデータサイエンスを用いた先端農業技術の研究開発や農業現場への普及・展開を推進する。
・民間企業と連携のAI学習支援システムの普及
・農業分野におけるICT人材の育成



水素社会の実現に向けた取組
水素エネルギーの利活用は、エネルギー供給源の多様化や環境負荷低減に大きく貢献、水素社会実現に向け環境整備を着実に進める。
整備状況・浜松市中部ガス 移動式、静岡市静岡ガス 定置式、御殿場市岩谷産業 定置式。
・水素ステーション補助率1/6 上限額1億円



浜名湖キューバヘミングウェイカップ事業
浜名湖の魅力の世界にアピールすることが期待される。
・事業費:2,500万円・開催:R2年7月17~19日
・浜名湖遠州灘でH21年から開催のカジキ釣り大会。浜名湖ミナトリング事業も併催される。



県立がんセンター PET-CT撮影装置購入
・予算額は7億円 ・がんの位置や大きさをより正確に判定、検査時間の短縮
・PET-CT装置は2基あるが2005年納入の装置を更新する。前回の納入金額は約2億7千万円、2008年購入のCT装置も更新する。一般競争入札の予定。



職業能力開発短期大学の設置
科学技術進展変化に対応できる技術人材育成
・全体事業費:42億円 ・開校:R3年4月
・沼津キャンパス 機械・生産技術科20人、電子情報技術科20人、情報技術科20人
・静岡キャンパス 機械・制御技術科30人、電気技術科20人、建築設備課20人
授業料年額23万4600円、入校料県内84,600円



魚介類種苗生産施設整備[160,500千円]
温水利用研究センター沼津分場が老朽化したため、最先端の種苗生産技術を活用した施設を再整備する。真鯛、鮑からクエ、ノコギリガザミも栽培魚種を追加。マリンバイオ技術導入。
・事業期間:R2~3設計、R4~5 魚類棟、貝類棟 R6年4月完成、3,489㎡から5,717㎡に増加



農林技術研究所茶業研究センター再整備
現施設は52年経過、研究施設・設備が老朽化。研究拠点として機能を検討し、施設整備する。世界市場を見据えた茶の先端研究開発とオープンイノベーションの拠点を旨とする。
R2~3基本設計、4~建設工事、試験圃場整備。オープンラボなど研究機能を活性化する施設、や交流スペースなど人材育成、情報発信機能を有する施設、茶業研究の特質を捉えた施設。

遠州灘海浜公園(篠原地区)基本計画策定 プラン1~3ある。
県営の野球場は中部に草薙球場、東部に愛鷹球場があり、西部として浜松の遠州灘防潮堤に隣接して計画されている。4年前、防潮堤と接続し、防災機能の在る野球場案が提案され、廃案となった経過がある。プランは3案あり、メイン球場は2.2万人と1.3万人収容の場合を案としている。

【プラン2】木々と水辺に囲まれた自然 スポーツ公園

■プラン2-1(メイン球場のスタンド規模:2.2万人)■

＜各ゾーンの面積割合＞
 ■野球場・ソフトボール 12%
 ■スポーツ広場 18%
 ■スポーツ広場(土) 18%
 ■水辺 12%
 ■緑地・レクリエーション 20%
 ■池 20%

＜駐車場＞
 施設:1,000台
 臨時:1,000台

＜凡例＞
 (実線)車両動線
 (点線)歩道

スポーツ広場(砂) 木々や水辺に囲まれたスタジアム 水遊び場 池